湘南医療大学
ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　保健医療学部看護学科
名　前　三堀 いずみ
作成日　2026 年 5 月 11 日

1. 教育の責任

1） 担当授業科目

〈1 年生次〉 必修:薬と毒性学入門
必修:看護基盤実習 I

〈2 年生次〉 必修:看護基盤実習 II

〈3 年生次〉 必修:成人看護方法論 II、必修:ナーシングプロセス II、必修:看護倫理、
必修:リハビリテーション看護論、必修:ヘルスアセスメント III
必修:慢性期看護学実習（一般病棟）

〈4 年生次〉 必修:看護研究 I・統合実習、
必修:チーム医療論 II ワーキング

2）学修支援

臨床看護領域に所属し、専門科目の成人看護方法論 II、ナーシングプロセス II、看護倫理、リハビリテーション看護論、慢性期看護学実習を担当した。

ナーシングプロセス II では、担当学生の看護過程の指導を行った。学修の遅れている学生には学生の理解度に合わせて個別で指導した。看護倫理は「がん看護学」の教員と演習を含めたプログラムを実施した。リハビリテーション看護論では、がんリハビリテーションを担当した。看護研究 I・統合実習では実習施設の緩和ケア病棟での看護や技術的な指導、記録、精神的サポートを行った。また、学生の興味や関心に沿った助言や文献検討クリティーク、論文作成のサポートを行った。

慢性期看護学実習（一般病棟）では、慢性期や回復期、終末期の患者の病態生理や心理社会面も含めた全体像の理解を支援し、関連図の指導や看護問題の抽出と看護計画の内容について、学生が看護過程の展開ができるよう指導を行った。また、学生が実習を通して興味関心を抱いたことをとらえ、さらに伸ばしていけるように心がけた。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

臨床家としての経験を土台とし、初学者である学生がイメージできるような分かりやすさと、臨床で役に立つための授業を心掛けている。学生の 4 年間の学びは看護師として働いてからの学びの基盤となる。学生が看護に興味を持ち、主体的に考え、学ぶことができるような授業構成を検討し、工夫をしている。また、授業形態はねらいやねがいを明確にした授業計画を作成し、今の学生に分かりやすいように、動画を取り入れる、タブレットを用いるなど、視覚に訴える工夫をしている。なるべく臨床での経験を盛り込むようにし、学生がイメージできるよう心がけ、興味を持てるよう工夫している。

学生は何かきっかけを掴めば成長できる。一つの単元で変化がなくても、実習や演習などを通して成長できる。学生の認知領域、情意領域、精神運動領域の把握につとめ、

学生に応じた関わりを心がけていきたい。その時に変化は見られなくても、愛情を持って関われば何か学生に伝わり、成長のきっかけを投じることを恐れず、今後の成長の可能性を信じて学生には関わっていきたい。

2) 理念をもつに至った背景

臨床での長い経験から、臨床現場は学生時代と比較にならないほど、多重業務に追われており、学校の学修内容とあまりにも乖離していると感じる。リアリティショックに潰れる新人看護師を増やさないよう、基礎だけでなく応用も大切にした指導を心がけている。しかし、看護の上で大切な倫理観は持ち合わせた看護師になってもらいたいねがいがあるため、授業や学生との関わりの中で伝えていきたい。

学生の中には親から看護師を勧められた、資格を取得することに意味がある、などと、周囲の勧めから看護学科に進学している学生も少なくない。これらの学生はモチベーションの維持が困難で、自分の興味関心を問われても見出せないことがある。実習にて臨床現場の現実を目の当たりにし、強い不安にかられる学生も多い。しかし、臨床経験を積みながらでも自分の興味のある分野を見出すことは可能である。学生時代からあまり焦らず、まずは国家試験合格を目指したサポートを行っている。

3. 教育の方法・戦略

1) 授業方法

オムニバス形式で授業を担当するため、自身の単位だけでなく、科目の目的や学生のレディネス、目標など全体を意識し、記憶に残る授業を心がけている。

- 授業計画を作成する。授業目的と目標、学生のレディネスを確認し、目的と目標が達成されるような授業内容を検討する。
- 講義資料は見やすく作成し、看護師国家試験の過去問を織り交ぜ、授業内容と国家試験対策も同時に図る。
- リアクションペーパーを活用し、授業内容の理解の確認や感想を把握し、授業評価や次の授業に活用する。

2) 演習

学生全員が体験できるような演習を組むことと、デモンストレーションを行って、学生がイメージできるよう心がけている。

- 演習計画を作成し、目的・目標の明確化、使用物品、タイムスケジュール等を考慮して、学生の動き、教員の動き、注意点などを明確にする。
- 手順書を学生が具体的に動けるよう、実習や臨地に出たときに活用できる資料作成を心がける。

3) チューター活動

3 年次生を担当している。チューター学生 14 名を把握するよう努め、いつでも相談

しやすい信頼関係を構築するよう心がけている。学生の希望や強み、特徴をつかみ、学生にとっての将来を大切に助言している。

- 年間に計画された面接を通して、学生の特徴や希望進路を把握する。
- 支援の必要な学生に関わる

4) 自己研鑽

がんサバイバー支援にかかわる NPO 法人に所属し活動している。緩和ケア認定看護師、がん看護専門看護師の役割を活かし、がんに関わるセミナーの開催、がんサバイバーや家族などへの相談支援などを行っている。真摯に対応することを心がけながら、活動している。

学会や研修会、オンラインセミナーなどから新しい知識を取り入れることも合わせて行っている。

4. 学習成果

なるべくわかりやすい表現を心がけ、イラストや映像を多く取り入れ、臨床事例を織り交ぜるよう工夫している。以下の反応より、映像は特に理解が得られやすい印象である。

- 【薬と毒性学入門】のリアクションペーパーからは、「がん看護に興味を持った」「もっと詳しく勉強したいと思った」「初めて寝ずに 90 分授業が受けられた」などの反応があった。
- 【成人看護方法論Ⅱ】では、「わかりやすかった」「途中で国家試験の問題が出題されることで、より理解が深まった」「臨床での話があり、イメージしやすかった」などの反応があった。「先生の体験談を交えながら講義をしてくれ、看護師として人としての在り方を学ぶことができとても好きな時間でした」との反応があった。
- 【リハビリテーション看護論】のリアクションペーパーからは、「医療が進化しがんになっても必ず死ぬ病気ではなくなってきたからこそ、患者が日常生活に戻るためのリハビリが必要と分かった」「終末期の方のがん、その過程での心身の変化、術後リハビリテーションについて学習しすごくわかりやすかった」などの反応があった。
  脳卒中のリハビリテーションについては、「運動麻痺が生じるメカニズムが理解できた」「脳の構造は苦手意識があったが、分かりやすくて勉強してみたくなった」「リハビリの重要性が理解できた」「回復期病棟で働きたくなった」などの反応があった。

5. 改善のための努力

- 単元全体の理解と学生のレディネスをあわせて、大学 4 年間のうちの位置関係を把握するために、シラバスを読み込み、先輩の教員に相談し、助言を受ける。
- 教育目標分類学の認知的領域、精神運動的領域、情意領域をてらして、学生の現状を把握する。
- 学生の主体性を引き出す授業や教育方法を学ぶために、文献や先輩教員から助言

を受ける。また、授業評価が学習目標を具体化し、習得内容の評価をタイムリーに行う。

・ 学生の主体性や思考を強化できるようにグループ学習を活用し、グループでの主体性や責任感を育成する。

6. 今後の目標

【短期目標】今年度末

〈講義〉

科目に課せられた目的・目標を達成できるよう、講義内容を工夫する。

シラバスから授業ごとのつながりを意識した講義を行う。

評価方法を明確化し、成果につなげていく。

〈実習〉

2 病棟を担当するため、臨床指導者と密に連携を取りながら、同じ方向性で学生に関われるように調整する。学修支援の必要な学生を担当するため、学習意欲が向上するよう学生のペースを見ながら支援していく。教員間の連携を強め、学生に不利益のないよう指導していく。

【長期目標】

臨床と教育の場をつなぐ橋渡しの役割を担い、臨床の看護の質向上に貢献したい。

【添付資料】

各項目の記載内容を客観的に示すためのエビデンスを**箇条書き**で記入してください。

・看護学科 2025 年前期 授業評価アンケート （NS3）成人看護方法論Ⅱ

【注意点】

注1） 本書類は公開を前提とした書類として扱い、現時点で教員評価とはしない。
なお、書類公開について公開方法、公開書類数、公開時期は未定であり、学長と協議の下決定次第、再度通知を行う。

注2） 添付資料は最大 1 部のみとする。授業資料はシラバスにて確認可能な為不要。
独自性、特異性のある資料を提示する場合のみ添付することとし、複数資料を添付する必要無。

注3） 資料添付する場合、本書類中に「添付資料〇〇（ファイル名）」と記載し、スライド貼り付け等は必要としない。

注4） 表紙を含め、3-4 ページ程度とする。

2025年度前期　授業評価アンケート　自由記述欄回答

科目：　(NS3)成人看護方法論Ⅱ
担当：　内藤　亜由美

質問内容　・　回答一覧

質問14：この授業でよかったと思う点を書いてください。

・先生が熱血だった。
・事例紹介があったりしたため興味を持って聞くことが出来た
・専門分野の教員による講義がわかりやすかった点。
・成人における様々なケアの方はや病態について学べるところ
・様々な過程にある患者のケア方法を学ぶことが出来た
・臓器の各機能にそって成人の特徴を理解できた
・事例がありどんなことを行ってどのような結果が得られたのかが分かりやすかった。
・いろんな先生が講義してくれるところ。
・成人の知識や、看護ケア、合併症など気をつけなければならないことや、実習で生かせることについて、学ぶことが出来た。
・成人看護という基礎的な部分をわかりやすく教えていた
・岡先生と三堀先生の講義が非常にためになりました。ただ学習するだけでなく先生方の経験談を交えながら講義をしてくださり、看護師として人としての在り方も学ぶことができとても好きな時間でした。
・小テストを講義後に実施することで知識の定着につながった。
・レジュメがわかりやすかった。
・講義ありがとうございました。レジメやスライドともに分かりやすく、自己学習でも活用しております。

質問15：この授業で良くなかったと思う点、改善すべきと思う点を詳しく書いてください。

・レジメの文字が多い、図も欲しい
・小テストをテスト前まで公開しておいてほしい
・小テストを開示してほしい

三堀先生

授業科目名　(NS3)成人看護方法論Ⅱ
代表教官　　内藤　亜由美

履修者数	129	回答数	94	回答率(%)	72.87	回答率学部平均(%)	56.49

質問1　履修動機	第1理由	第2理由	第3理由
1)　この授業に関心があったから	20	10	12
2)　シラバスを読んで	2	17	6
3)　教員に魅力があったから	0	2	11
4)　自分の専門に関係が深い分野だから	9	9	22
5)　幅広い教養を身につけるため	2	*25*	10
6)　必修だから	*60*	*25*	*28*
7)　単位が取り易そうだから	1	2	1
8)　その他	0	4	4

「質問2」以降の質問内容

質問2　意欲的に受講したか
質問3　内容を理解したか
質問4　考え方、能力、知識、技術などが向上したか
質問5　自ら学ぶ意欲は湧いたか
質問6　課題を発見し探究する力がついたか
質問7　教員に熱意は感じられたか
質問8　教え方はわかりやすかったか
質問9　教員はコミュニケーションをとる工夫をしていたか
質問10　1週間当たりの平均勉強時間
質問11　板書、配布物、提示資料は読みやすいか
質問12　教員は勉学環境に配慮していたか
質問13　総合的に判断し良い授業だったか

	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10　勉強時間(%)					質問11	質問12	質問13
	意欲平均	理解平均	向上平均	自発的平均	探究平均	熱意平均	教え方平均	コミュニケーション平均	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	板書平均	環境平均	総合平均
担当科目	4.45	4.44	4.41	4.38	4.38	4.53	4.46	4.31	4.3	6.4	9.6	21.3	58.5	4.39	4.44	4.44
学部平均	4.50	4.40	4.48	4.40	4.36	4.61	4.42	4.39	3.81	4.60	13.67	26.52	51.40	4.40	4.47	4.51
学科平均	4.45	4.34	4.43	4.34	4.27	4.57	4.30	4.25	2.70	4.14	13.94	28.06	51.17	4.28	4.39	4.42